

学校経営推進費 評価報告書（1年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のプレゼンテーションスキルの向上（教員による要素別評価、10点満点） ・教員の授業変革（創意工夫）による、生徒の授業満足度の向上（授業アンケート等にて測定） ・連携による、企業（組合）の満足度の向上（企業へのアンケート、求人数、就職率等にて測定）
計画名	「ものづくり現場のリーダー素養」育成プロジェクト

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>A 中核教育活動施策 (1) わかる授業、充実した授業の推進 授業アンケートの1回目と2回目の「改善率」に着目する。また生徒向け学校教育自己診断における授業満足度70%超えを目標とする（わかる授業：H24 50%、H25 61%、H26 54%）（授業の工夫：H24 60%、H25 62%、H26 61%）さらに、平成27年度学校経営推進費事業による教室・会議室へのプロジェクター等ファシリティ整備と共に、授業にグループワークやプレゼンテーションスキルを向上するためのプロジェクトを発足させ、研究授業や研究協議を活発に行いながら、生徒が「他のメンバーの意見を上手に聴取し」、「まとめて」、「効果的に伝えるスキル」を獲得できるように全教職員で取り組む。</p> <p>C アウトプット対象施策 (5) 地元企業との連携の充実 工科高校重点化の取組みとして、ものづくり企業が集積している東大阪・八尾地域を中心に一層の企業連携を図り、出前授業やインターンシップを活用したキャリア教育・職業教育の充実を図る。</p>
事業目標	<p>工業・工科高校である本校生徒は、ものづくりにおける作業技能の向上には着実な成果が見られるが、企業において今後強く期待されるのは、そのものづくりのノウハウや素晴らしさを上手に伝え、相手の行動が促される表現力である。さらに日本のものづくりの強さの源泉はチーム力であり、その鍵はチームメンバーの知見や経験を活かした改善であり、そのためにも要点をまとめ効果的に伝える力が重要である。本校ではこのような企業ニーズに合致した人材の卵を輩出すべく、①クラスにおいて生徒のグループワークでの意見を集約する力と伝える力の練磨 ②ラーズ・プレゼンテーションルームにおいて、3系それぞれが他の系の生徒に対して行うクロス・プレゼンテーションで気づきの誘発と相互フィードバック ③さらに、聴衆をPTA、中学、地域にまで拡大して、自らのプレゼンテーションがどのようなアクションを生むかによつてのブラッシュアップ等でものづくり現場のリーダー素養を育成する。</p> <p>一方、企業（組合）から来校いただく出前授業や講演会を積極的に誘致し、生徒にとって様々な職種の業務体験を可能として、就職可能性を拡大する。と同時に、その様子を動画に収録し動画投稿サイトで発信することにより、企業組合からすれば社会貢献としてとらえられ、Win-Winの関係強化となり企業連携が加速することが見込まれる。その結果、本校生徒へのインターンシップや求人数増加に結びつくことが期待される。</p> <p>そして何よりもグループワークに関する校内研修や研究協議を行える環境の形成は、教員同士の活発な意見交換や実践が授業変革・改善につながり、それが教員自身の高い肯定感となって、生徒に還元される。</p>
整備した 設備・物品(数量)	<p>会議室：プロジェクター・電動スクリーン・液晶テレビ（2台）・音響関連・AV制御システム 教室（16クラス）：液晶プロジェクター（16クラス）・接続コンセントボックス</p>
取組みの 主担・実施者	<p>取組みの主担：（首席・機械系長） 取組みの実施者：（事務） サポート：（首席・第二学年主任）、（首席・建築設備系長）</p>
本年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクタ設置およびプレゼンテーションルームの設備導入については、契約局による調整となり、設置工事完了は平成27年12月末であった。 ・3年生の授業は1月8日が始業式で1月12日から学年末考査まで、実質2週間であり、また2年生の計16教室のプロジェクター活用による授業の試行は、既にノウハウを有する10名+αの教員にとどまった。 ・企業（組合）からの出前授業は、電気工事組合（H27年12月）・シーリング工事組合（H28年2月）がプレゼンテーションルーム（会議室）を用いて実施。 ・生徒会主催のイベントをプレゼンテーションルームの機能を用いて実施できた（H28年3月）
成果の検証方法 と評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒アンケート：出前授業・キャリア講演会の効果を傾向把握 ②教員による生徒のプレゼンテーションスキル評価：3点（10点満点） ③本校教員で、年5回以上プロジェクターを用いた授業の実施割合：約35%（前年度15%） ④グループワークを用いた授業展開：20%（前年度5%） ⑤就職率：100%
自己評価	<p>※（記号説明）大きく上回った（◎）、上回った（○）、達成できず（△）、実施できず（×）</p> <p>◇専門系16教室のプロジェクターの活用 ・今年度、専門系教室に設置されたプロジェクターを用いた授業の使用回数は35回（設置前は32回）。プロジェクターが教室に設置されて約2カ月間で今年度の使用率の約50%を占めている。（○） ・昨年度よりプロジェクターを用いた授業回数は400%アップしている。（昨年度16回）</p> <p>◇ラーズ・プレゼンテーションルームの活用 ・当初2年目の計画であった企業（組合）からの出前授業は、電気工事組合（H27年12月）・シーリング工事組合（H28年2月）がラーズプレゼンテーションルーム（旧会議室）を用いて実施。（◎） ・生徒の満足度ならびに企業の満足度は極めて高い結果となった（アンケート：生徒および企業）（◎）</p> <p>◇現場のリーダー素養の育み ・生徒による発表の機会が増加（○）（課題研究の発表会・学校説明会・生徒会活動・小中学校への出前授業等） ・初任者を中心とした研修会を16回実施（研究協議等）。その中には、プロジェクターを用いた授業も含まれている。（○） ・グループワークを活用した授業の実施については、既にノウハウを持つ数名の教員にとどまった。（△） ・グループワークを行うためのファシリティ研修は実施できていない。（△）</p> <p>◇就職率 ・最終就職率:100%達成（参考：一次合格率:80.1%）（○）</p>
次年度に向けて	<p>◇生徒 生徒の発表機会を増やす。教室での授業から、積極的に自分の意見が言えるようにする。 プレゼンテーションの機会：課題研究発表会（優秀者には次の機会を設ける） ・出前授業（3年生） ・インターンシップ発表会（2年生）</p> <p>◇教員 初年度に行っていた初任者中心の研修会をグループワークプロジェクト（GWP）に昇華させ、コアチームによるグループワークの活性化・ファシリティ技術の向上をめざす。生徒が発表するためのテクニックを共有する。</p> <p>◇企業（組合） 企業による出前授業・講演会の実施。今年度の実施実績を踏まえ、生徒にも企業にも満足度の高い機会であるので、継続して実施していけるように計画する。</p>

学校番号

3008